

【基準 I 建学の精神と教育の効果】

(a) 要約

学校法人近畿大学の創立以来の「実学教育」「人格の陶冶」「人に愛される人、人に信頼される人、人に尊敬される人」を核とした建学の精神および教育の目的は、本学の教育・研究の目的および教育方針として確立している。また、これに基づいた各学科の教育・研究の理念、育成する人材像、学習・教育目標は本学の学則、『学生便覧』（提出資料1）などに明記されている。さらに、各種の媒体を通して学内外に表明し、教職員および学生間での共有のための努力も払われている。

各学科は、建学の精神に相応しい人材を育成するために、教育目的・目標や学習成果を明確にしている。各学科が定めたアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは、教育目的・目標や学習成果を具現化したものであり、『学生便覧』に明記され、『キャンパスガイド』（提出資料2）などの印刷物や本学ホームページ（提出資料3）、各種ガイダンスを通して学内外に表明されている。各学科は、学習成果を量的・質的データとして測定するために、定期試験・レポートなどの評価、「授業評価アンケート」（備付資料23）の活用、各種資格・免許認定を用いている。さらに、各学科は教育の向上・充実のために、学習成果の策定、授業改善、教育課程編成の見直し、教育指導の実施方針などについてPDCA サイクルに基づき定期的に点検している。

本学は「近畿大学九州短期大学自己点検・評価の実施に関する規程」（提出資料4）に基づいて自己点検・評価委員会を設置している。学長のもとにALOと委員会のメンバーが中心となり、全教職員が日常的に自己点検・評価に取り組んでいる。特に本学では、平成9（1997）年度より総合的な自己点検・評価として卒業式直前に卒業該当者を対象とした「卒業時アンケート調査」（備付資料6）を実施している。また、平成17（2005）年度からは、授業改善を目的とした「授業評価アンケート」を前期と後期の終了時に実施している。これらの調査結果は、「自己点検・評価報告書」（備付資料2）として自己点検・評価委員会が作成し、事務室で自由に閲覧できるようにしている。

(b) 行動計画

建学の精神に対する学生および教職員の理解、周知などに関しては、従来の取り組みを継続していく。さらに、本学のあらゆる教育活動が建学の精神と教育の目的に基づくものであることを定期的に確認・点検する機会を増やしていくことが重要である。

学習成果を評価する方法に関しては、既存の定期試験、レポート、「授業評価アンケート」、資格・免許認定に併せて、各学科において、より客観的に量的・質的データを収集・分析できる方法の導入が検討されるべきである。

「自己点検・評価報告書」は、事務室のみで閲覧が可能となっているが、学内外に効果的に公開できるように、本学ホームページ上での公表を検討中である。また、「授業評価アンケート」は、調査の信頼性と妥当性の観点から受講生の少ない科目では実施されていない。今後、全科目の実施をめざして調査方法の工夫が必要である。